

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月1日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520259

研究課題名（和文） カッセル国民文庫の書誌的研究

研究課題名（英文） A Bibliographical Study of the The Cassell's National Library

研究代表者

田村 道美（TAMURA MICHİYOSHI）

香川大学・教育学部・教授

研究者番号：40036083

研究成果の概要（和文）：明治時代から大正時代にかけての日本における英文学受容において、カッセル国民文庫は重要な役割を果たしたが、この叢書に関する研究はこれまで等閑に付されてきた。本研究では同文庫を書誌的な観点から調査し、その全体像を解明した。

研究成果の概要（英文）：The Cassell's National Library played an important role in the reception of English literature in Japan between the Meiji era and the Taisho period, but the study on the Library has been completely neglected. I made bibliographical researches and have obtained a general picture of the Library.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：書誌学、カッセル国民文庫、大衆啓蒙文庫、イギリス版第1期～第4期、アメリカ版第1期・第2期

1. 研究開始当初の背景

イギリスの出版社カッセルは1886年よりカッセル国民文庫を毎週1作品ずつ刊行した。この文庫はイギリス大衆の啓蒙をめざしたもので、したがって廉価で販売された。この文庫は明治期から大正期に日本に輸入され、日本の文学者や学生の外国文学、特に英文学の受容に大きな貢献をした。たとえば、島崎藤村や馬場孤蝶など「文学界」同人がこの文庫に収録された『ウェルテルの悲しみ』を読んで創作刺激を受けた。坪内逍遙は早稲田大学でのシェークスピア講読の際に、学生たち

にカッセル国民文庫を使用させた。夏目漱石の蔵書中には同文庫が16冊あり、ほとんどの作品に書き込みがある。また、明治期日本文学の研究者・柳田泉は「私の大学時代」と題する講演の中で、大正初め頃の古本屋にはカッセル国民文庫が山積みになっていたと証言している。

このようにカッセル国民文庫は明治期から大正前期かけて、日本の文学者や学生の外国文学受容に大きく貢献したと考えられるが、これまで同文庫に関する研究は皆無といってもいい状態であった。

筆者はこれまで同文庫の調査を行い、最初の成果を「レクラムかカッセルか」(田村道美他『絶版文庫三重奏』青弓社、2000年)としてまとめた。そこでは、日本の文庫本のルーツはドイツのレクラム文庫であるとの従来の見方を覆し、明治期後半に刊行された文庫本「袖珍名著文庫」「袖珍文庫」等はカッセル文庫を範としたこと、「青年英文学叢書」の装丁はカッセル国民文庫第4期の装丁をそっくり真似たものであることなどを明らかにした。

カッセル社の社史によれば、同文庫は1886年から1890年にかけて刊行されたとあるが、この記述は正確ではなく、装丁等を変えながら、1913年頃まで刊行されたこと、またアメリカでも装丁を違えて刊行されたことなどを突き止め、これらの成果をもとに「カッセル国民文庫について」(田村道美他『絶版文庫嬉遊曲』青弓社、2002年)をまとめた。その後、イギリス版第3期の本体に表紙だけを付け替えて刊行されたアメリカ版を入手し、「アメリカ版カッセル国民文庫について」(『香川大学教育学部研究報告』第1部第119号、2003年)を補遺として発表した。

しかしながら、本文庫については依然として解明できない点がいくつかあった。これらの疑問点を解決することで、カッセル国民文庫の全体像を明らかにすることを目指し、科学研究費補助金を申請した。

2. 研究の目的

筆者のこれまでの収集や調査研究により、イギリス版カッセル国民文庫は第1期から第4期まで、アメリカ版では第1期と第2期が刊行されたことが判明したが、イギリス版第2期と第3期の刊行時期がはっきりとは特定できなかった。したがって、研究の第1の目的は第2・3期の刊行時期の特定である。

第2期では、新たに追加された数作品は刊行開始から比較的早い時期に刊行された。具体的には *The Haunted Man*, *Heroes and Hero-Worship*, *Friends in Council*, *The Life of Nelson* の4作品である。一方、第3期の刊行書目を見ると、第2期で追加された作品は第1期刊行作品の最後に置かれているが、不思議なのは第2期では刊行されなかった *Selections from Wordsworth* が最後の作品として掲載されていることである。この謎の解明が第2の目的である。

アメリカ版第2期はイギリス版第3期の本体に表紙を張り替えたものであり、イギリス版第2期が刊行された時期にアメリカ版が刊行されなかった。その理由を解明することが第3の目的である。

アメリカ版では作品番号の前に Vol. I とか Vol. II といった巻数が付いているが、この巻数が何を単位としているかを明らかにする

のが第4の目的である。

3. 研究の方法

書誌的研究という性格上、実物確認が不可欠であるが、カッセル国民文庫は大英図書館にイギリス版第1期と第4期は収蔵されているものの、第2期と第3期はほとんど収められていない。アメリカの議会図書館やその他のアメリカの大学図書館や公共図書館に収蔵されているアメリカ版もごくわずかである。したがって、欧米の古書店の多くが加盟している Bookfinder や viaLibri 等の Website を利用して、カッセル文庫の実物収集に努めた。また、国内外の大学附属図書館等に文献複写を依頼し、実物収集の補足とした。

4. 研究成果

(1) カッセル国民文庫各期の刊行時期は次のようであることを解明できた。(重版刊行時期は除外した。)

イギリス版第1期 (1886～1890年)

イギリス版第2期 (1891～1895年)

イギリス版第3期 (1898～1902年)

イギリス版第4期 (1903～1907年)

アメリカ版第1期 (1886～1890年)

アメリカ版第2期 (1888～1902年)

イギリス版第1期では209点の作品が毎週1点ずつ刊行された。また、作品の背表紙下部に作品番号が付され、その番号順に刊行された。これに対して、第2期は当初「選集シリーズ」として、第1期の半分にあたる104点の作品に数点の作品を新規に加えて刊行が開始されたが、最終的には第1期209点に新規作品5点を加えて、計214点が刊行された。ところで、第2期の刊行順を知るのには当初はほとんど不可能に思われた。その理由は第1期とは異なり、第2期では背表紙下部にも既刊書目にも作品番号が記されていないためである。既刊書目にある作品は刊行順に掲げられているが、刊行書目に割り当てられたスペースは1頁と限定されているため、刊行2、3年目になると、作品が省略されるようになり、刊行順決定の役には立たなくなる。しかし、作品の最終頁下部に印刷された数、5-191、103-1292等が作品番号と刊行年を表していることが判明した。すなわち、5-191の5は作品番号、191の最初の1は1月、次の二桁の数字91は1891年を表している。この数字解読法により、最終頁下部に103-1292の数字のある作品の作品番号は103で、1892年12月に刊行された作品と知ることができる。入手等で確認できたこれらの数字と刊行書目を基にして、第2期の全作品の刊行順を突き止めることができた。

第2期の作品番号に関しては、もう一つ厄

介な問題がある。それは刊行開始3年目頃から背表紙下部に作品番号が付くようになるが、その番号はなぜか第1期のもので、第2期のものではないということである。したがって、第2期の作品番号を知るためには作品の最終頁下部の数字を確認する必要があることを説いた。

第2期作品番号54として1981年1月に刊行された *Lives of Alexander and Caesar* に”New Volume of ‘Cassell’s National Library’ ”と題した1枚ものが挟み込まれていた。それによると、*Selections from Wordsworth* は中等学校の高学年用に特別に編まれたもので、(おそらく頻繁な使用に耐え得るように)クロス装のみで刊行する(カッセル国民文庫はクロス装と紙装の2本立てで刊行された)ため、同文庫の1つとはしないとある。この1文により、*Selections from Wordsworth* は1981年1月頃に刊行されたが、上のような事情で同文庫の刊行書目には加えられなかったことがわかった。しかし、最終的には、同文庫の最後の作品214として刊行書目に加えられた。

第3期は「新シリーズ」として刊行されたが、実際は第2期に刊行された作品を再度刊行したシリーズにすぎない。また、装丁も第2期と同じである。第2期との違いは、作品番号が背表紙下部に付されていることと、刊行当初から作品番号付きの刊行書目が掲載されていることである。作品番号の付け方は第1期のそれを踏襲し、第2期で追加された5作品には210-214の番号が付された。ただし、第1期とは違い、第3期では作品が作品番号順に刊行されなかったことと、この期の作品が入手困難であったため、刊行順は特定できなかった。しかしながら、第3期の刊行開始年については、作品の扉にある発行所の違いから知ることができた。第2期が刊行された1891年から第3期の刊行終了年の1902年までの作品の扉下部にある発行所を見ていくと、第1期にはあって第2期からは消えていた New York が1898年の作品から復活していること、また、アメリカでもこの時期にイギリス版の本体に表紙を張り替えたアメリカ版が刊行されたことにより、第3期は1898年から刊行されたことを突き止めることができた。

第4期は第3期と同じく、「新シリーズ」と銘打って刊行された。全刊行点数111点の内、21点が新たに追加された作品であり、装丁も一新されており、第3期よりも「新シリーズ」の名称にふさわしいシリーズである。第4期は背表紙に作品番号が付され、番号順に刊行された。ただし、理由は不明であるが、作品番号108までは毎週1点ずつ刊行されたが、残り3点は2年後の1907年に刊行された。

(2) イギリス版第2期が刊行された時期に、アメリカではそれに相当するシリーズが刊行されなかったのは、当時のニューヨーク支店長 Oscar M. Dunham が1890年にロンドン本社から独立して新会社 The Cassell Publishing Company を設立し、独自の方針で書籍を刊行したためと判明した。

(3) アメリカ版には作品番号の前に Vol. I とか Vol. II といった巻数が付いている。具体例を挙げれば、Vol. I, No. 26, Vol. II, No. 65, Vol. III, No. 117 等である。この巻数と作品番号の付け方から、巻数の単位は50作品と考えていたが、Vol. I, No. 51 の作品を入手することで、この仮説は成立しなくなった。そこで、巻数は1年間に刊行された作品を示すのかと考えたが、No. 51 の作品が1896年ではなく1897年1月に刊行されたことにより、この仮説も正しくないことが分かった。No. 52 は入手できなかったが、No. 53 が Vol. II であることから、イギリス版で1年間に刊行された52作品を巻数の単位としていると解明できた。なお、アメリカ版はイギリス版より約1ヶ月遅れで刊行を開始したため、各巻数は翌年に跨がっている。

アメリカ版第2期にも巻数と作品番号が付されているが、最初の巻数は Vol. VI である。収集等で確認できた作品の作品番号は300番台が圧倒的に多かったことから、第2期の番号は第1期の最終番号に新たに数字を加えたものと推測された。ただし、その最終番号は実際の最終番号214ではなく、Vol. V に割り当てられた番号52個の最終番号260に、刊行順位の数字を加えたものである。なお、第1期の作品番号に260を足しても、第2期の作品番号とは一致しない。これは、第2期の作品がイギリス版第3期(既述のように、この期の作品は入手困難で、刊行順は特定できない)の本体に表紙だけを張り替えて刊行されたためと考えられる。

(4) アメリカ版第1期の作品番号には、157A, 157B, 158A, 158B と妙な番号が存在する。アメリカ版ではイギリス版にはなかった2つの作品—*Murder as a Fine Art*, *The Republic of the Future*—が作品番号69と109として刊行されたが、Vol. III に属する作品の刊行が終わる頃、すなわち作品番号156が刊行される直前に、このまま作品番号を伏せて行くと、アメリカ版の作品番号数がイギリス版のそれより2つ多くなってしまふことに気づき、157と158にAとBを付すことでイギリス版と同じ作品数になるよう調整したと考えられる。

(5) アメリカ版の紙装本には表紙上部右に

刊行年月日が印刷されているが、クロス装にはなぜかそれが印刷されていない。また、紙装本・クロス装本のどちらにも扉下部には発行年が印刷されておらず、クロス装本のみでは発行年を知ることはできない。入手等で確認できたアメリカ版第1期紙装本の刊行年月日と当時の暦を照合してみると、毎週土曜日に刊行されていることがわかった。第1期は作品番号順に刊行されたので、全作品の刊行年月日を特定することができた。国内外の図書館の目録を調べてみると、アメリカ版クロス装本に関しては発行年不明としたり、誤った発行年が記されている。このため、発行年月日を添えた刊行書目を作成することにより、クロス装本の発行年特定の利便を図った。

(6) アメリカ版第1期と装丁が酷似しているが、出版社名が Cassell & Company でなく The Cassell Publishing Company とあるカッセル国民文庫があることに気づいた。この文庫は Dunham が破産後の 1893 年に会社を引き継いだ W. L. Mershon が第1期の表紙の出版社名のみを変更して刊行した1種の海賊版で、表紙の出版年は 1886～90 年となっているが、実際には 1893～97 年にかけて刊行されたものであることを明らかにした。

(7) カッセル国民文庫収集の過程でいくつかの異装版を確認できた。第1期では、背革平マーブル装丁という豪華版を入手した。1890年1月に全作品刊行後、重版のクロス装本は緑と紺の2種類の無地装丁で刊行された。そして、2種類のうち紺色無地装丁が第2期・第3期のクロス装本に採用された。なお、第2期・第3期には赤色の異装本があった。

第4期では、Presentation Edition of Classics と銘打って、人気の高い19作品が全革装丁で刊行された。また、全作品刊行後、おそらく 1912 年頃から、重版が異装丁で刊行された。

(8) イギリス版第4期の作品刊行終了後、カッセル社は第4期 111 点から 25 点を選び、Cassell's Little Classics の名称で刊行した。このシリーズはクロス装のみで刊行された。

(9) 金沢大学附属図書館には長尾景弼が起こした出版社・博聞社が明治 23 年に刊行した『ワーレンヘスチングス』が所蔵されている。この本のタイトルは日本語であるが、中身は英文である。また、本のサイズや扉の上部に Cassell's National Library とあることから、この本がカッセル国民文庫第1期の第1作品として 1886 年 1 月に刊行された *Warren Hastings* の扉の1部を変え、日本式の奥付を付しただけの海賊版であることが

判明した。博聞社がこの作品を刊行するに至った経緯は不明であるが、日本の外国文学受容におけるカッセル国民文庫の役割の重要性を示す一つの証左と考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

「カッセル国民文庫の書誌的研究(1) —カッセル国民文庫第1期—」(『香川大学教育学部研究報告』第I部第135号、2011年3月、pp. 7-21.

「カッセル国民文庫の書誌的研究(2) —カッセル国民文庫第2期—」(『香川大学教育学部研究報告』第I部第136号、2011年9月、pp. 15-34.

「カッセル国民文庫の書誌的研究(1) —カッセル国民文庫第3期・第4期—」(『香川大学教育学部研究報告』第I部第137号、2012年3月、pp. 87-96.

〔学会発表〕(計1件)

「カッセル国民文庫の書誌的研究(1) —カッセル国民文庫第1期—」、日本英学史学会中国・四国支部 12 月例会(於 香川大学)、2010 年 12 月。

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田村 道美 (TAMURA MICHİYOSHI)

香川大学・教育学部・教授

研究者番号：40036083

(2) 連携研究者

()

研究者番号：